



HIRAMATSU
EDUCATIONAL GROUP

大分リハビリテーション専門学校 理学療法士科

PT NEWSLETTER

19 May 2026

VOL.02

理学療法士が保育現場へ？ - 「保育士みなし特例」ってなに？

現在、少子化が進む一方で、発達支援や医療的ケアを必要とする子どもへの支援の重要性が高まっている。

こうした背景を受け、2026年4月より、理学療法士などのリハビリ専門職を一定条件のもと「保育士」とみなす特例制度が施行された。理学療法士は、身体の発達や運動機能に関する専門知識を持っており、近年では小児分野や発達支援の現場でも活躍の場が広がっている。

では、理学療法士は保育現場において、どのような役割を担うことが期待されているのか？



生成AIツールを使用して作成

みなし保育士（特定理学療法士等） となれる要件

対象職種：理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等

条件：①または②を満たすもの

- ①保育所等での勤続年数が3年以上であること
- ②上記に該当しない場合でも、子育て支援員研修の地域保育コース、その他都道府県知事または市町村長が認める研修を修了していること

本校での取り組み

本学科では、子どもの成長や発達について段階的に学べるカリキュラムを取り入れている。

1・2年次では、「人間発達学」「小児科学」

「小児発達理学療法学」を学び、子どもの身体や発達の特徴、支援方法について理解を深めていく。

また、3年次の臨床実習では、小児理学療法に関わる実習施設もあり、実際の現場で子どもへの関わり方や支援について学ぶ機会が設けられている。



なぜ理学療法士なのか

理学療法士は、「立つ・座る・歩く・走る」といった基本的な動作だけでなく、姿勢やバランス、身体の使い方など、子どもの発達に関わる幅広い知識を持っている。

近年では、発達の特性により「転びやすい」「姿勢を保つことが難しい」「身体の使い方が不器用」といった課題を抱える子どもへの支援も増えている。

理学療法士は、遊びや運動を通して子どもの身体機能の発達を支援し、「できた」という成功体験につなげる役割を担っている。

また、保育現場では、安全に活動を行うための環境調整や、子ども一人ひとりに合わせた関わりも重要となる。理学療法士は、身体機能や発達段階を踏まえながら、多職種と連携して支援を行うことができる。このように、理学療法士は医療機関だけでなく、子どもの生活や成長を支える場でも活躍が期待されている。

学校生活での様子は [こちらから](#)→

Instagramを覗いてみてください。

